

GUIDEYE Station/CoreLab DataNet機能

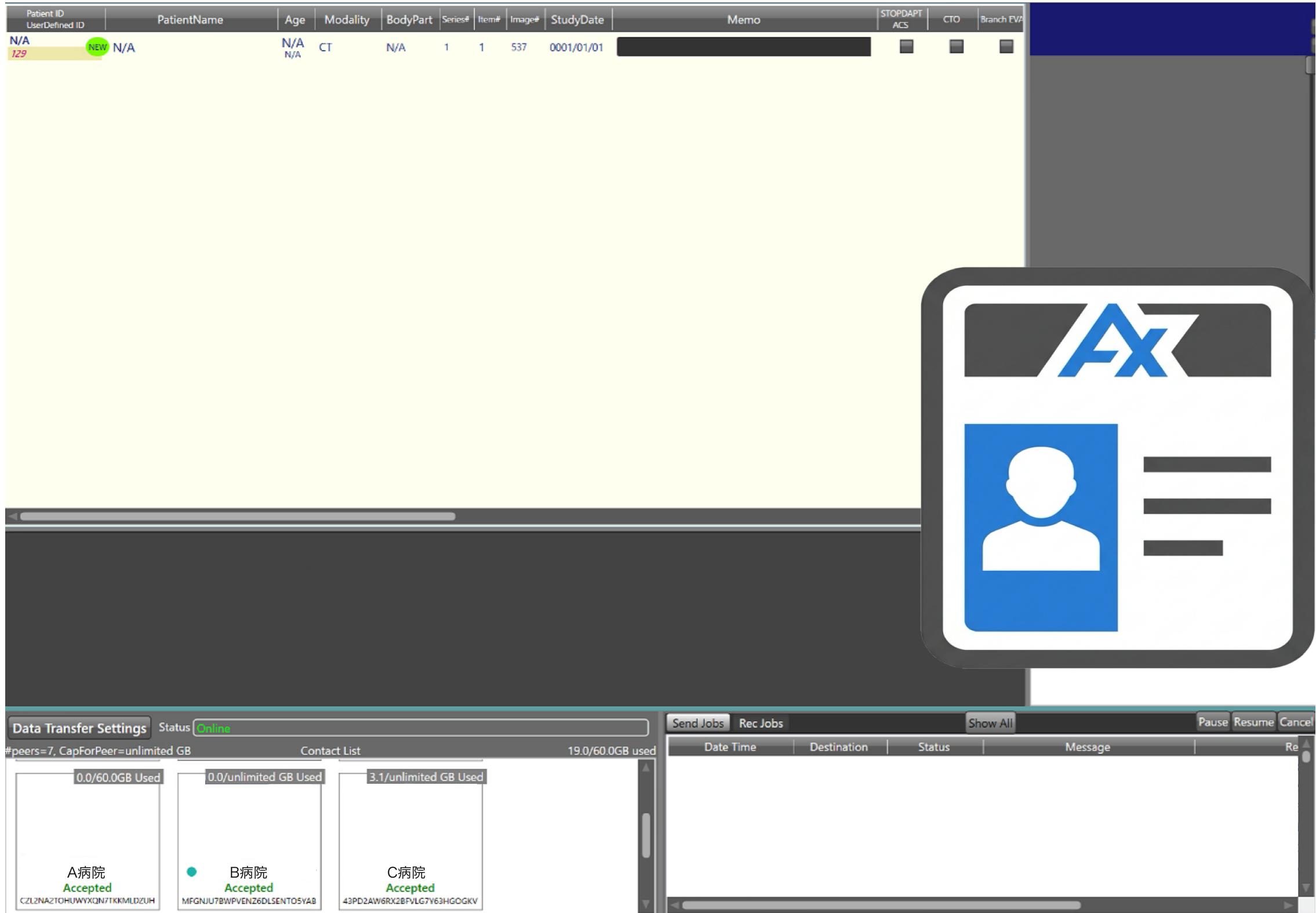
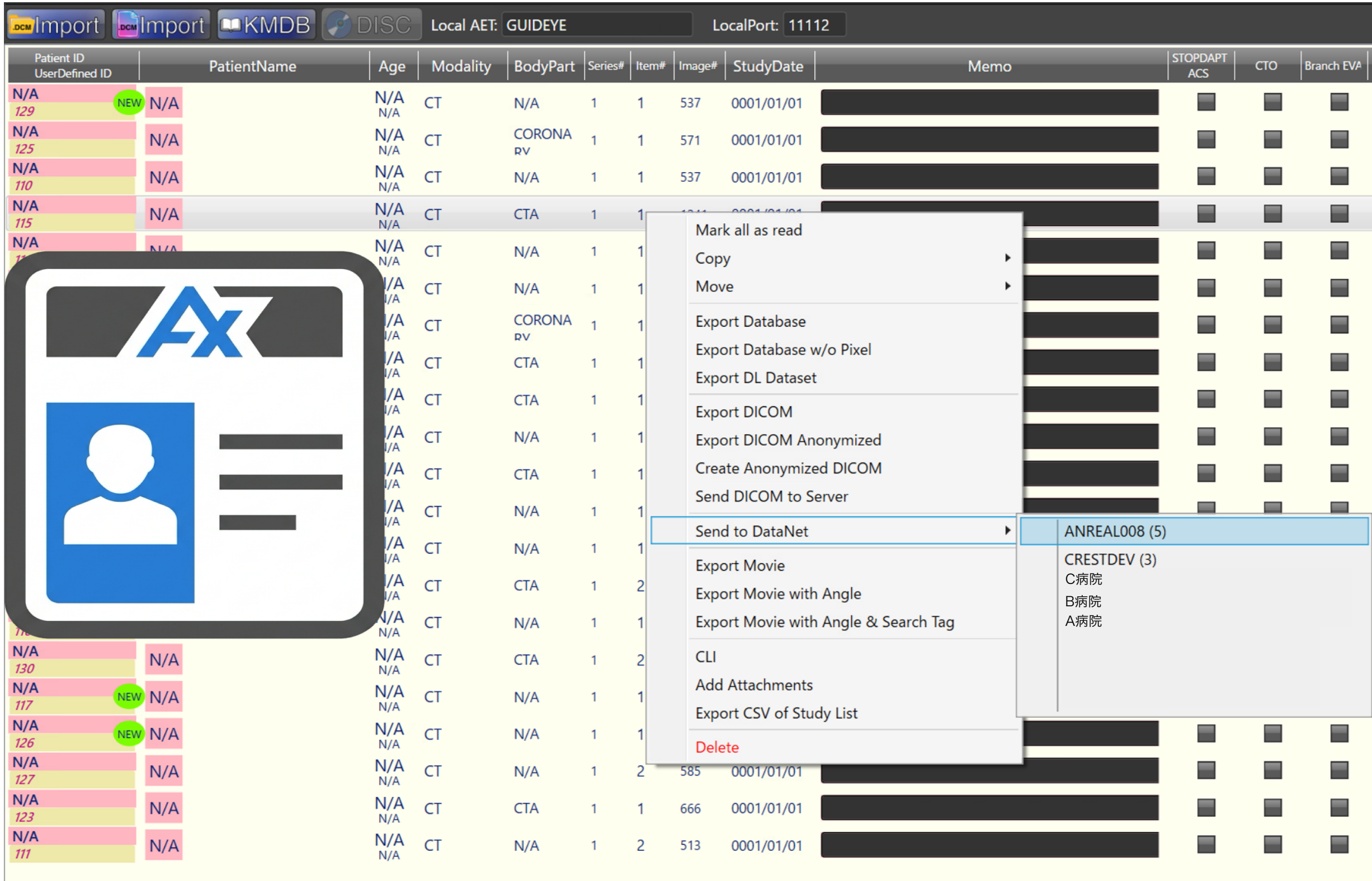
DICOMデータ転送機能 操作早見表

DataNet機能とは

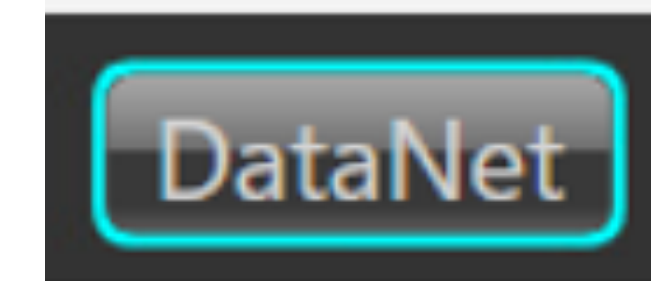
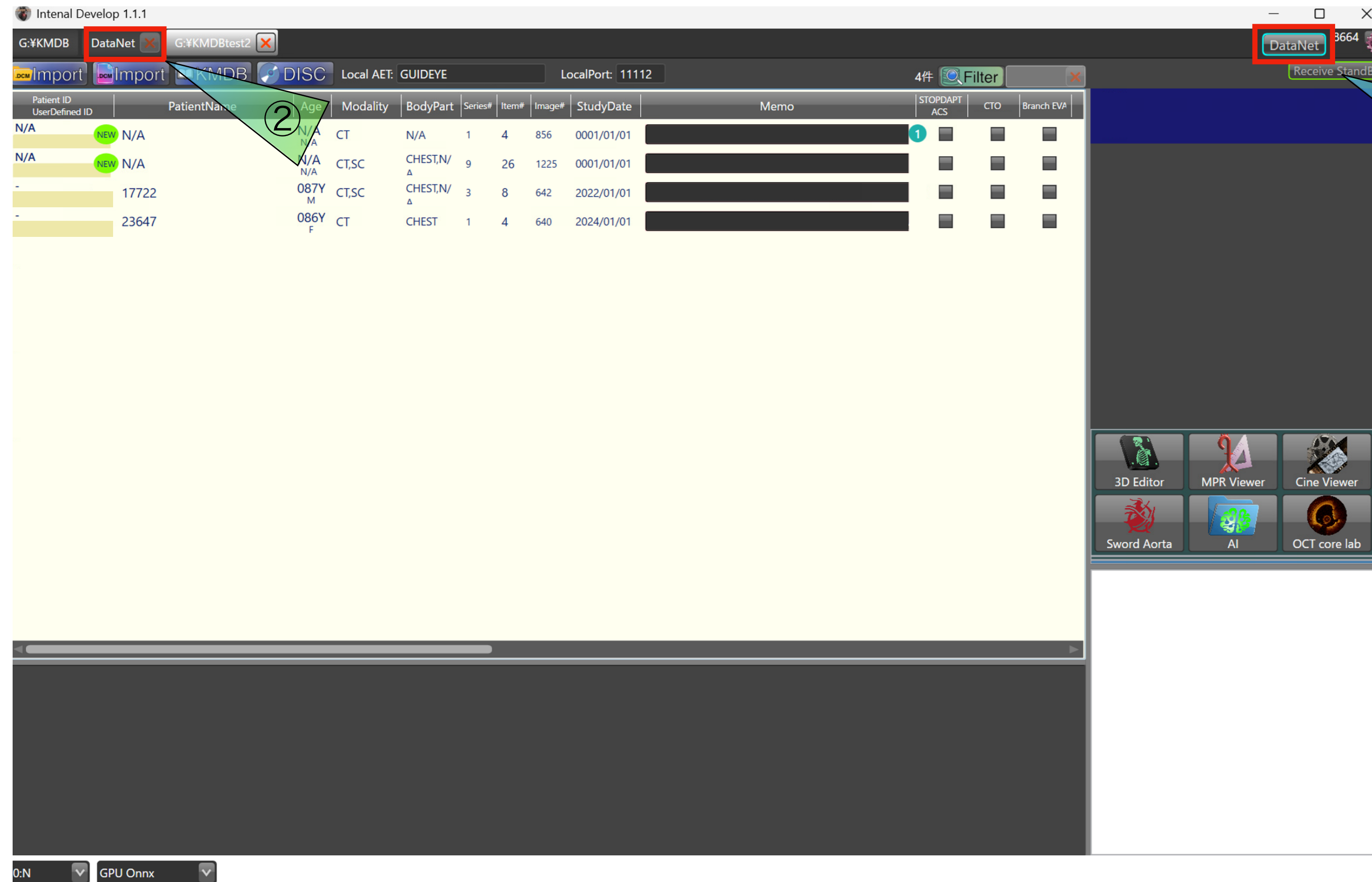
サーバーに保存せず、端末同士で直接DICOMデータを転送する機能です。
送受信履歴は自動で記録され、相手はあらかじめ相互登録するため、なりすましの心配もありません。

端末A

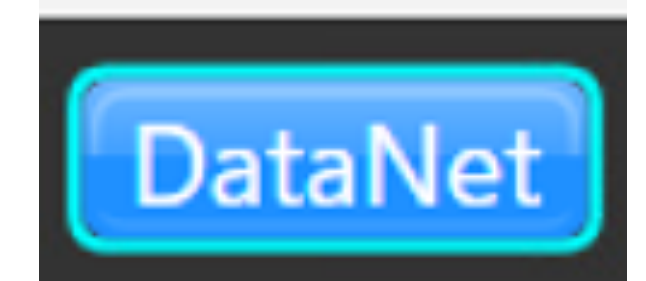
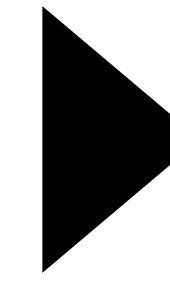
端末B



DataNet使用方法(DICOMデータ転送システム)



オフライン

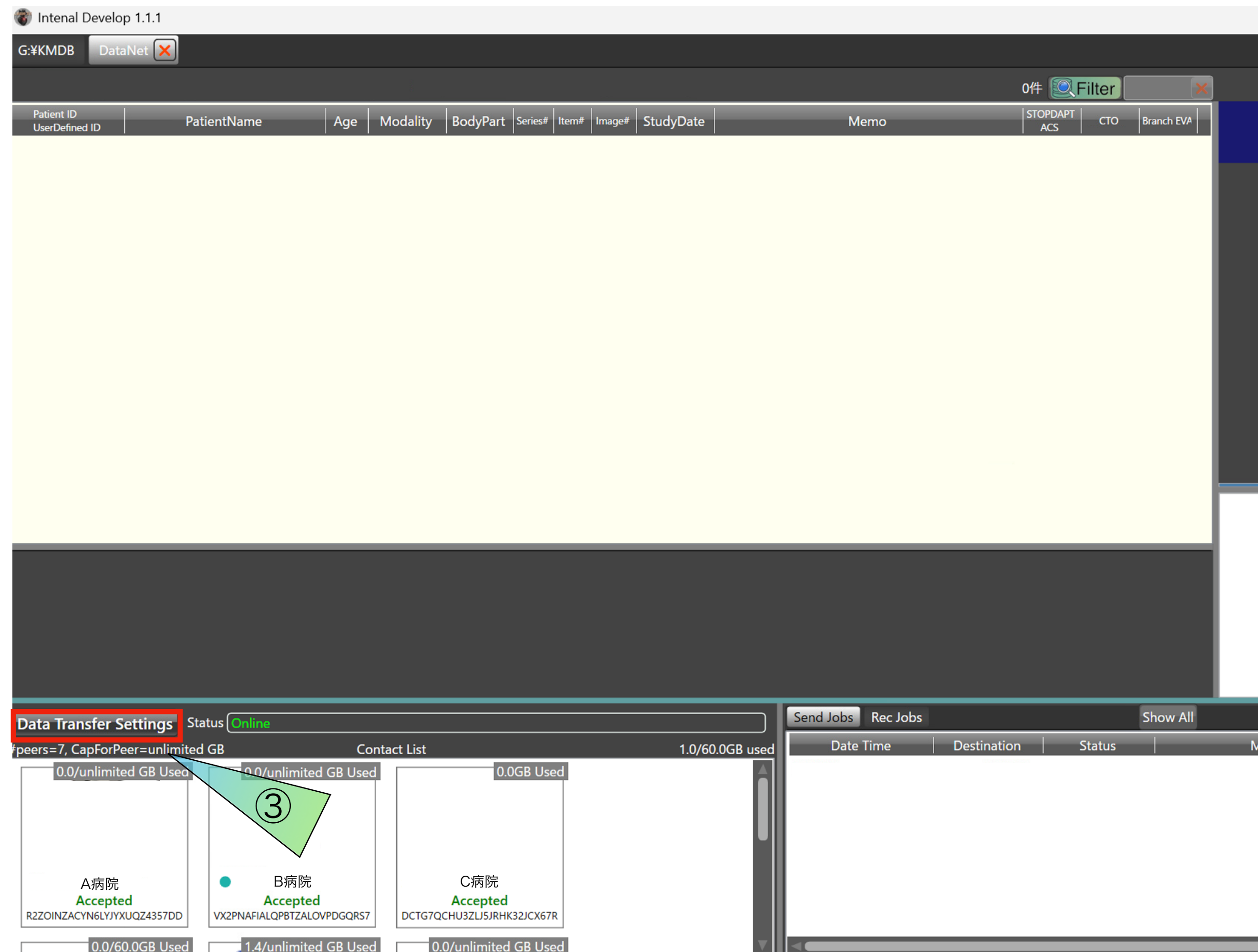


オンライン

①右上のDataNetボタンを押して有効化

②オンラインになると、上段に「DataNet」タブが表示される

DataNet使用方法(DICOMデータ転送システム)



③DataNetタブのウィンドウ内の「Data Transfer Settings」を開く

データ転送設定（プロフィールカードの登録と相手の登録）

自分のプロフィールカードを作成・出力し、データ転送する相手にプロフィールカードファイル（.artp）を送付します。相手のプロフィールカードを登録すると、データ転送システムで送受信できるようになります。



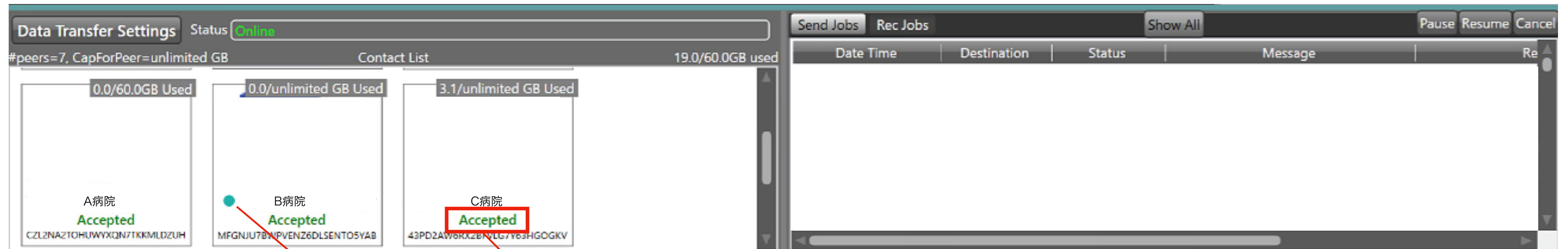
④初めてウィンドウを開く場合、初回のみ
プロフィール名の変更登録が可能。
(相手に表示される名前)

⑤相手に表示されるアイコン画像を登録 (任意)

⑥自分のプロフィールカードを出力し、データ
転送したい相手にプロフィールカードファイル
(.artp)を送付
※メール,USB媒体などで送付可

⑦相手のプロフィールカード(.artp)を登録

データ転送設定（プロフィールカードの登録と相手の登録）



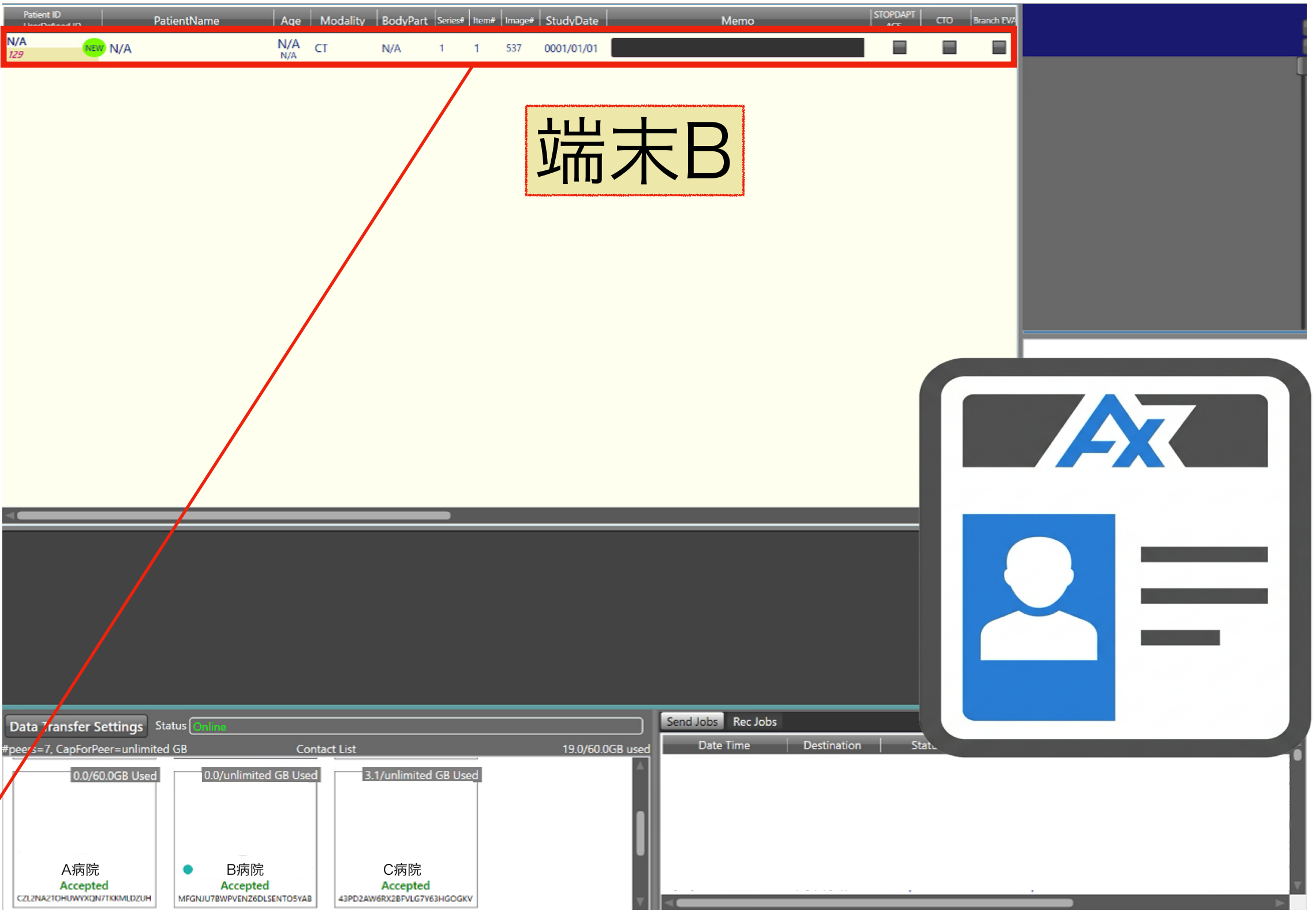
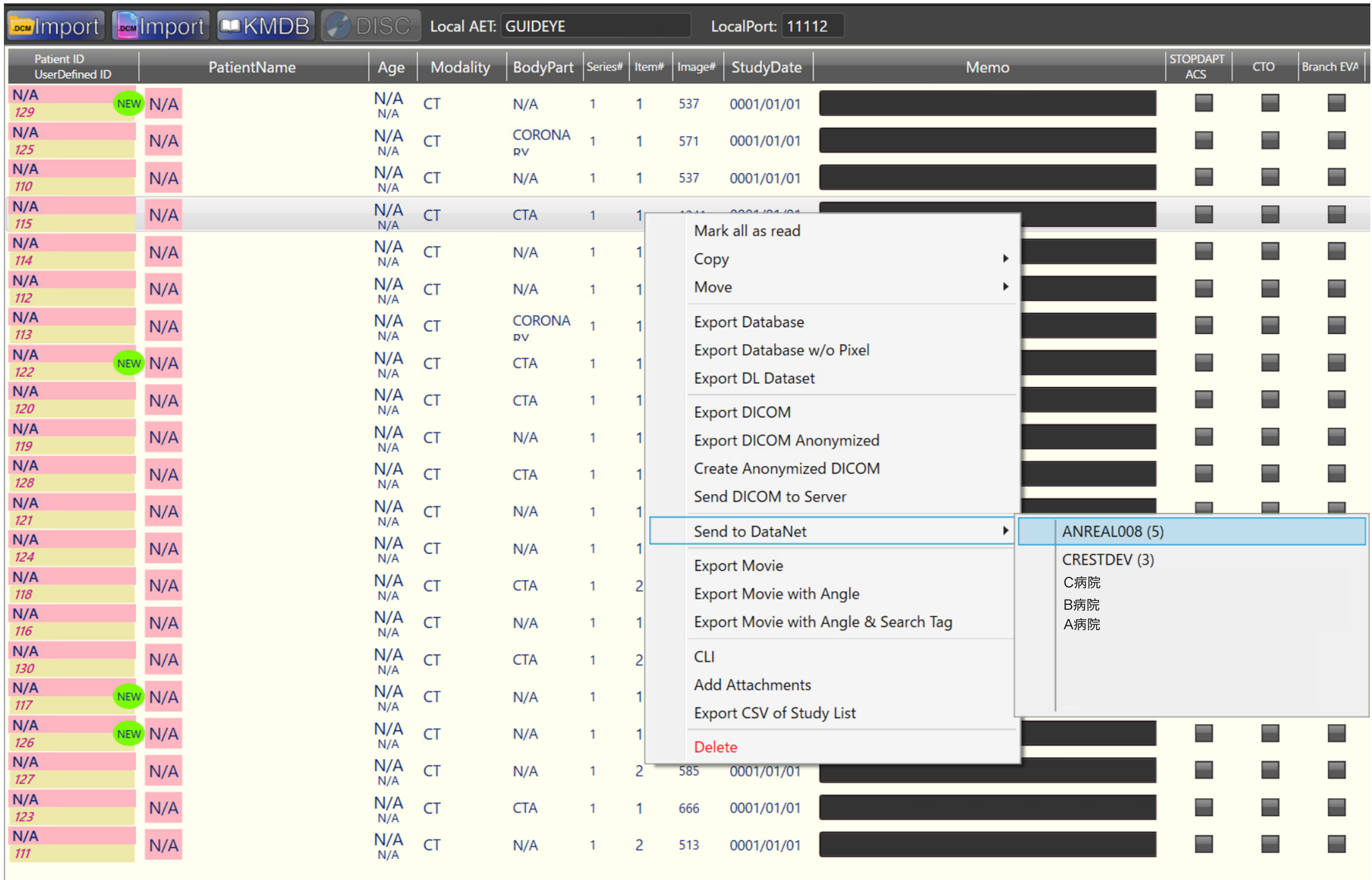
相互登録完了した相手は”Accepted”と表示

相手がオンラインの場合●がつく

お互いにオンラインの場合にデータ転送が可能

データの送受信

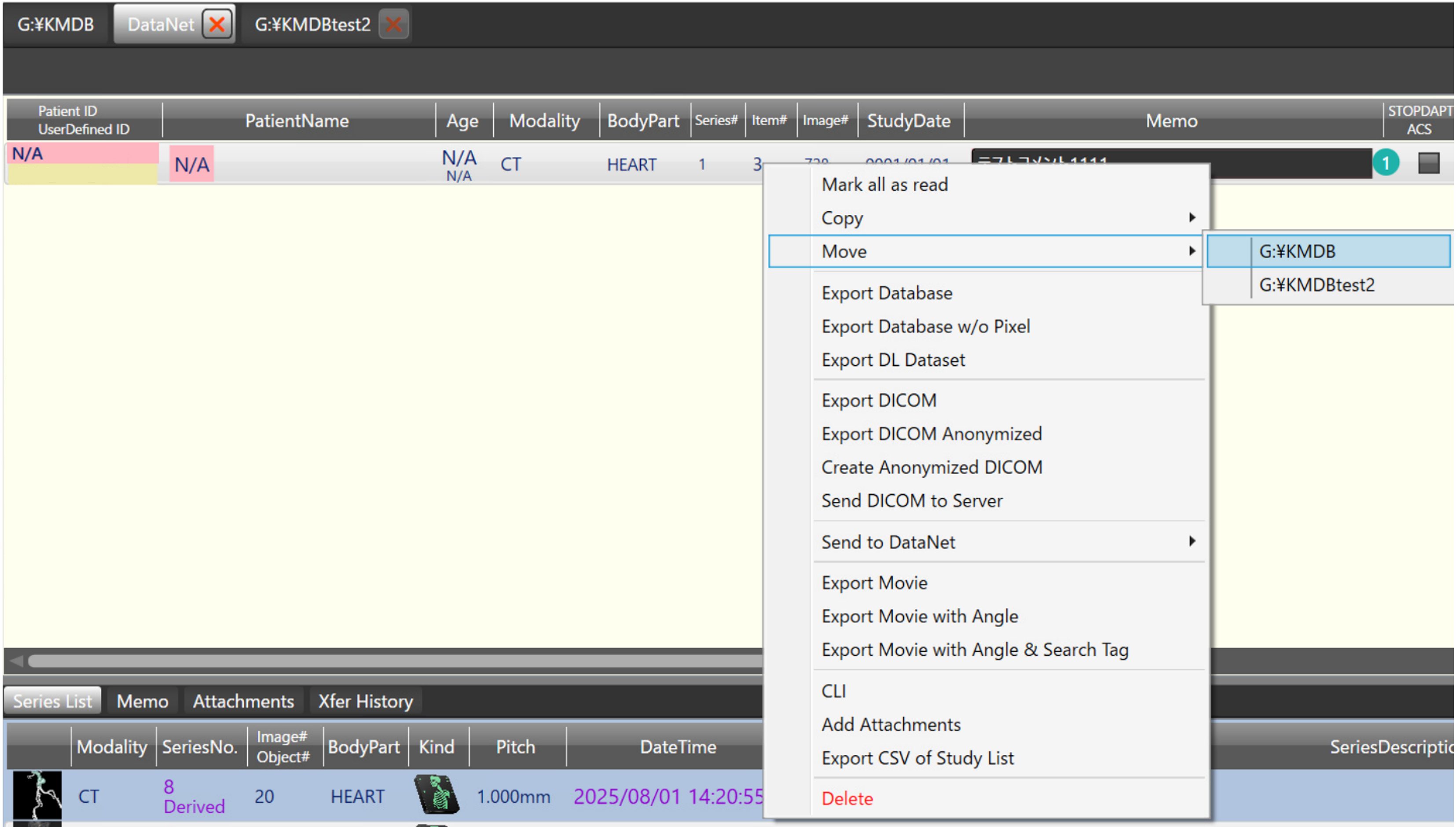
【送信】 Studyを右クリック→「Send to DataNet」→宛先選択→OK



受信側はDataNetタブのデータベースに受信したデータがリスト表示される。

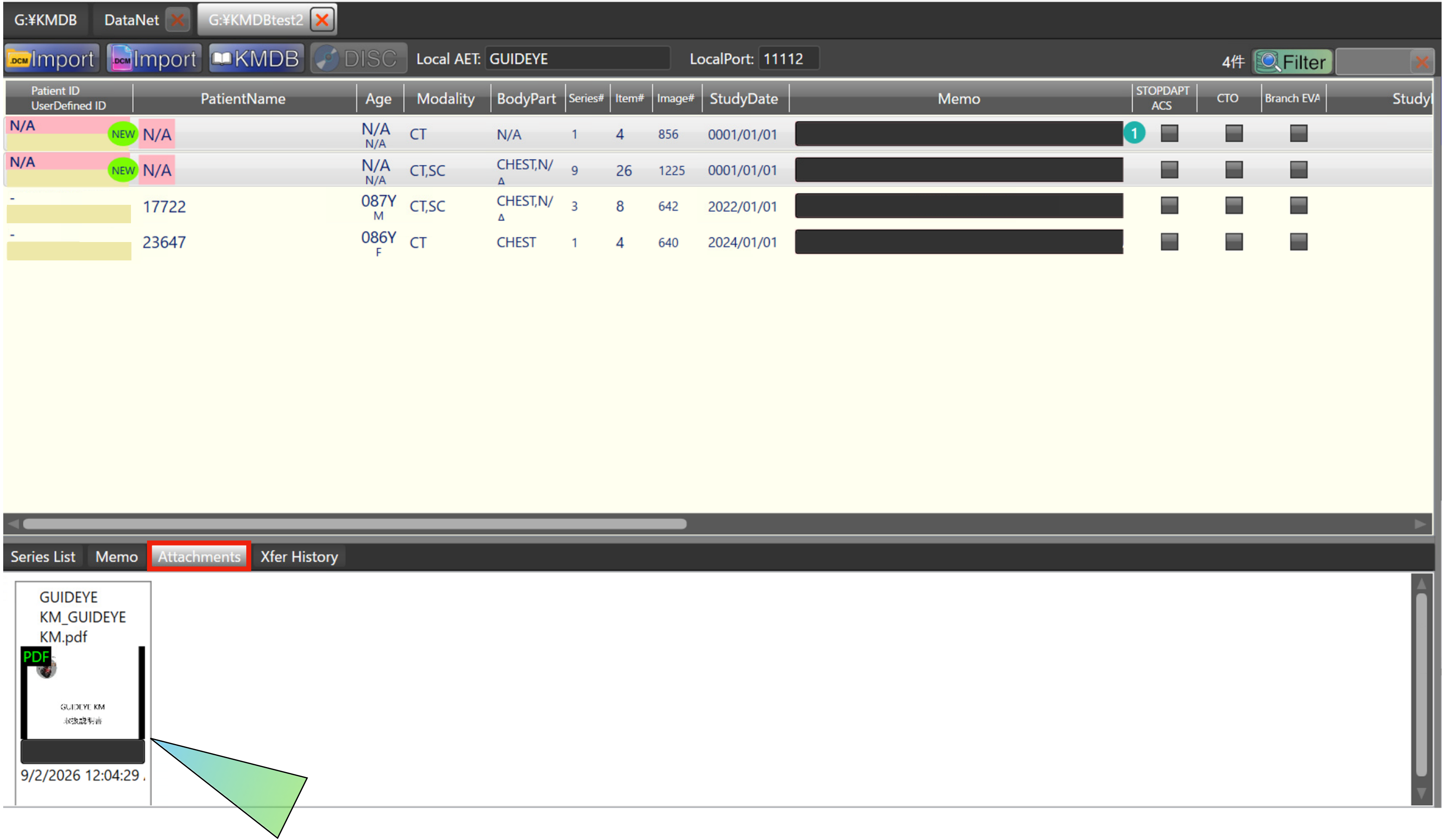
データの送受信

【受信】 受信データを右クリック→「Move」で正規データベースへ移動、解析・閲覧が可能に



その他の機能1：添付ファイル

DICOMの検査データには、PDFレポートやメモなど、任意の形式のファイルを添付できます。



下段の「Attachments」タブにファイルをドラッグ&ドロップ

その他の機能2：送受信ログ (監査ログ)

改ざんできない送受信履歴を自動記録

データ転送 — 設定

プロフィール（相手に表示される）



永田町PC2

画像を選択...

削除

自分のカード

カード(.artp)を書き出して相手に渡してください。相手がこれを取り込むと、あなたが相手の連絡先に登録されます。

カードを書き出し(.artp)

相手のカードを連絡帳に登録

相手から受け取ったカード(.artp)を取り込みます。署名を検証して連絡先に追加します。

カードファイルを取り込み(.artp)...

受け入れる研究ID（UDID）

ここに設定した文字列で始まるUDIDのデータだけを受け取りたい、という宣言です。連絡先に配布され、相手のアプリが送信前に照合します。複数はカンマ区切り。空欄＝すべて受信。

監査ログ / Audit log

いつ誰に何を送ったかを追記のみで記録します。書き換えると検知できます。

C:¥Users AAAA¥AppData¥Local¥GuideyeDataNet¥1fd80272d62207e6

参照...

※ 既定の場所はWindowsのバックアップ対象外です。長期保存が必要な場合は、施設でバックアップされる場所を指定してください。

フォルダを開く

整合性を検証

CSVで書き出し

直接接続（P2P）の使い方 / Direct (P2P) connections

失敗したら30分試さない（既定）

※ 直接つながらない相手へは中継します。中継した分はライセンスの中継転送枠を消費します。
Relayed transfers count against your licence's relay quota. Direct connections do not.

いつ、誰が、何を送受信したかは、すべてJSON形式のログとして自動的に記録されます。保存場所は自由に指定できます。

改ざん・削除を検知できます

その他の機能3：データ転送量

Peer-to-Peer（P2P）転送は容量無制限

端末同士が直接つながるP2P転送であれば、データ容量に制限はありません。
ただし、**院内ネットワークの設定などによってP2P接続ができない場合は、
中継サーバーを経由した転送に自動的に切り替わります。**
この場合、ライセンスに応じた転送容量の上限があります。

- ・GUIDEYE Station　：3日間で4GBまで
- ・GUIDEYE CoreLab：追加オプションにより3日間で60GB、または無制限まで拡張できます。

その他の機能 4 : UDID (識別コード) とStudy Memo (検査メモ)

GUIDEYEで記載したUDID, Study Memoはそのまま相手に転送される

Patient ID	PatientName	Age	Modality	BodyPart	Series#	Item#	Image#	StudyDate	Memo	ST
UserDefined ID										
N/A	N/A	N/A	CT	HEART	1	3	728	0001/01/01	テストコメント1111	1
EVAR label 18		N/A								

UDID

Study Memo

データ転送 — 設定

プロフィール (相手に表示される)



画像を選択...

削除

自分のカード

カード(.artp)を書き出して相手に渡してください。相手がこれを取り込むと、あなたが相手の連絡先に登録されます。

カードを書き出し(.artp)

相手のカードを連絡帳に登録

相手から受け取ったカード(.artp)を取り込みます。署名を検証して連絡先に追加します。

カードファイルを取り込み(.artp)...

受け入れる研究ID (UDID)

ここに設定した文字列で始まるUDIDのデータだけを受け取りたい、という宣言です。連絡先に配布され、相手のアプリが送信前に照合します。複数はカンマ区切り。空欄 = すべて受信。

特定の文字列から始まるUDIDのデータだけを受信する、という設定も可能。

匿名化されたデータであっても、研究用のIDを見失うことなく管理できます。